



ご近所トマノハ

by うさお



師匠に直してもらった俳句は good (ぐっと) 良くなっちゃうので、朝日俳壇にでも出して見ようかなって欲が出てきちゃうよ。何だか入選しちやいそうな気が沸々としてきちゃうね。

でも、入選しちゃった場合、著作権はどうなるのかな。元句は私であるが、師匠の手が入っている。これで、またぐっ〜うと良くなっちゃっているから、原稿料はどうしたらいいんだろう……。師匠に内緒で独り占め？

だから私が一躍、俳壇の寵児になっちゃてですよ……。いや、師匠にもばれちゃうだろうし、困っちゃったなって、ふと。

でも、健ちゃんけんちゃんは毎回、褒められているなあ。花鳥風月、最近アイドルさんたちのCDで、よく使われている。情景を表す四字熟語かな……。それとも四言律詩の1節かもしれんねって、句を捻ってる時に考えた。日出彦ひでひこさんの好きな……。漢詩だよな。ふ〜ん。それにひきかえ、日本古来の自然の様(花鳥風月)を表す言葉には、二文字のものが多いなあ。

そら、やま、うみ、かわ、もり、たに。はる、なつ、あき、ふゆ、とり、いぬ。

この二音の音感は日本人に合うのかも。これは言葉の由来に強そうな矢澤やざわさん(実はメンバーの中に矢澤姓の方が二名いらっしゃるのですが、どちらも言葉の達人で同じ様な性格を有しておられるような気がします。この場合は両名を指しちやいます。一挙に斬りつけて感じですね。)に、お伺いするのが良いかも知れないなあ。面白い知見や、蘊蓄を披露してくれるかも知れない。

二文字というのは、短縮文字なのか、日本人はもともと二文字文化なのか？もし、これが文化なら、

「はくじん うそ つく。おれ うそ ない。」

ってな、会話が主流だったのかも。

「せみ」とか、「うま」とかは、この言葉以外の訓読みを知らない。でも、朝鮮から来た言葉だそう。「うま」は昔は「むま」と表記したらしい。その傳で行くと「うめ」もそうなるのか



僕も食べたいです。



むま!

な。本当は「むめ」と発音するらしいし。

確かに馬は朝鮮から伝わったそうなので、それ以前の日本には、いなかったのかなあと思えるけど、蟬はいたんじゃないかなあ。虫だし、ずっと太古の昔から・・・。

明治の大道芸人というか、寄席芸人で、添田唾蟬坊奈丸（あぜんぼうなまる）と言う人がいました。演歌師である。1970年代に高田渡がこの人の曲を好んで歌っていたので、覚えているのだが奈丸はだいぶ過激な思想的闘士であつたらしい。

高田渡唄う処の「米は南京、おかずは黄粉、牛や馬でもあるまいし、一所懸命こき使われて、これも時節と諦めた・・・諦めなされよ、諦めなされ、役人何ぞは威張るもの、長いものには巻かれてしまえ・・・」とうろ覚えの「諦め節」の歌詞を口ずさみながら、図書館で調べたら、唾蟬坊の歌詞とは似て否なるものだった。^{注1)}



ちょっと話は逸れてしまいましたが、「せみ」と「うま」が入っているという三題漸ならぬ二題漸でした。

で、先ほどの二文字言葉ですが、日本人はこの語感と簡潔さが好きなのかもしれません。昔のサラリーマンは、会社から帰ってくると、「ふる、めし、ねる!」としか言わなかったそう。 (うさおは違います。「風呂と飯と寝床!」ってしっかり言います)

最近、昼の景色をじっくり見るのは、**ライ隊員**と散歩に行くか、トマソン隊をする時しか見ていないようです。この僅かなお出かけの時の句は、**師匠**にまた、お送りしておきます。また、凄い添削をしてもらえたら、ちょっと本格的に朝日俳壇を考えよつと。

さて今回は、今までのトマソン隊の中で、少し気に掛かったことを復習して見たいと思います。じゃあ、さっきの「二文字言葉」の話は、何だったのかって? いやだなあ、枕ですよ。軽い前振りです。ほら、**Tomy Tr.**さんがステージで、**矢澤**さんのねたを振って、こけたってやつです。^{注2)}

この辺の定期行物を手に入れたい方は、直接 **Tomy Tr.**さんに頼んで下さいね。

以前水道編で、二ヶ領用水の話と鶴見にある溜め池の話をしました。これの補稿を少ししておきます。

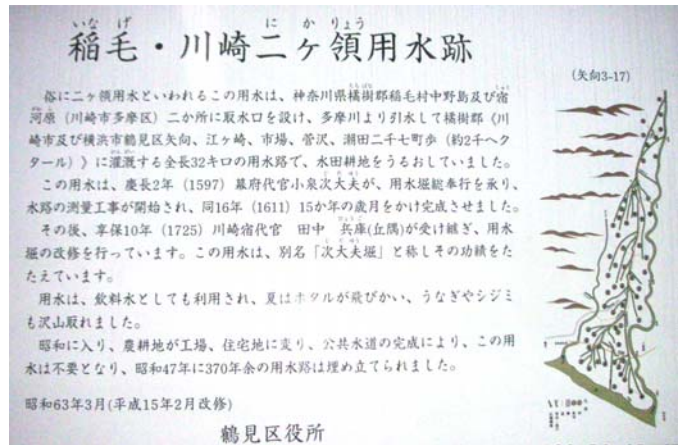
二ヶ領用水

うさおは今、矢野口・南多摩間の南武線の高架化の設計に携わっています。現地踏査でこの地に行った時のこと、大丸（おおまる）と呼ばれる用水が通っていることを知りました。看板に「二ヶ領用水」の文字が。



おっ！吃驚です。趣味と仕事とが、かち合っちゃいました。

大丸用水は稲城市の全域に亘ってあり、多摩川の右岸に取水口があります。以前は八ヶ村用水と言い、江戸時代の初めに作られたと聞きます。多摩川の水を、是政橋の方から延々引いていたのですね。この用水は竹蛇籠などによる仮堰に依っていたようで、今でもあったら風情があるんだがなあ。稲城から大丸用水は三沢川と二ヶ領用水に別れます。この用水が農業用水にもなり、横浜市の水道にも用いられました。引かれた先は昔は海岸近くまでだそうなので、ここ、鶴見の矢向にも水路跡があります。海が見える所まで水田が作られていたってことですね。だから鶴見の辺りにも鷺が飛んできて、鶴だ、鶴だって言われたんでしょう。



弁天池

鶴見には、大池と呼ばれる溜め池が随所にあったようです。三つ池や二つ池もそうですし、この弁天池もそうです。成願寺池は今では見ることも出来ません。

この弁天池は、昔は大池という名前で親しまれていたようで、このような写真も残されています。今では周りは埋め立てられて住宅街になってしまいました。小洒落た家が多く、立派な家々ですが、敷地は可能な限り分割され、昔より大分、家の規模は小さくなったようですが。

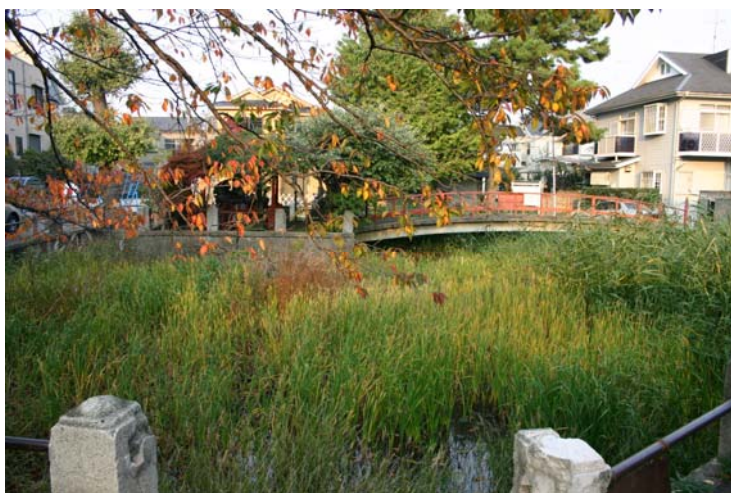


昔の弁天池（「わか町の昔と今」より）

高校の友達のK君はここに住んでいて、学校の帰りに立ち寄ったら池の中に弁天様が祭ってある所で、少し薄気味悪さを感じました。それにもっと鬱蒼たる林が、池を囲んでいたような記憶がありますが、今は少しあっけらかんとしています。

K君は将棋の駒を逆さにしたような顔で、見様によっては誠道会館の角田師範に似ていました。ともに美術部に所属していました。が、あまり洒落が判るタイプでもなく、ラーメンズのようにコンビを組もうとは思いませんでした。

（もちろん私が、小林賢太郎です！）



成願寺池

成願寺さんの裏手に広がる大きな池があったそうで、ここも農業用の灌漑池で、豊岡が農地から商店街になるに従って消えていったものです。古い地図には、池の一部が総持寺の山門近くに残っており、**うさお**も若かりし時に、お正月のお参りに見かけた記憶があります。この山門前は正月やお盆は夜店が立ち並びます。今年の正月は雪だったせいで、客の出足が悪くさっぱりでしたが。

長い間、鶴見大学の学生寮だと思っていた建物は、帝国ホテルの従業員寮でした。この寮が元は沼みたいな池でした。この成願寺さんの中には、なにやら古を残すような橋の名前の碑が残っていました。これがそうだったのかしらん。仏教的な名前の由来が判りません。**由佳ちゃん**の出番かも。





えい、**ライ**隊員は入れないのか。鼻が良いのに。少し前の地図では、その位置を示しているものもあります。どうも総持寺の山門前から「トポス」にかけて、池があったようです。

私も昔の記憶では沼のようであり、蓮が咲き三溪園（横浜の本牧にある日本庭園）の池のようでした。総持寺の首切り鐘衝き堂や裕次郎の墓、開かずの踏切などは後日のトマソン隊にて、ご報告をいたします。

そう言えば今の地図に残っている池は、それとは無縁のもので総持寺の山地にあり、三松閣の伽藍にある池です。この右手の潜り門の向こう側にあり、**Cacco** 隊員がずかずかと探訪しましたが、見つけれませんでした。



二つ目の池は多分一番大きな池で、鴨達が良く遊びに来ています。周りには遊戯広場が幾つか点在しており、最も大きな池です。



三つ池

三つ池は本当に三つの池からなっており、県の指定公園でもあります。馴れないと中で迷子になり、中々会えないこともしばしば。（今は携帯電話があるので便利です）一つ目の池は入ってすぐの野球場の隣にあります。ここには池に突き出た売店が有り、景色を堪能出来ます。



三つ目の池は公園のメインゲートにあります。暗くてあまり良い写真が撮れませんでした。子供たちの好きな大山滑りが近くにあり、人気の有る池です。もちろんここは釣りなど禁止で、管理人がすっ飛んで来ます。



川の放送アンテナ塔があります。いつも不思議だったのは、この池は結構高台にあり、鶴見の町とは15m位の高低差があるのに、なぜ池の水が流れ出て無くならないのだろうかと言うことでした。

地下水流や覆水が有り、峠に湧き水が出ることは知っていますが、なかなか意識では理解しにくいものがあります。ここの三ツ池の里という茶屋にも、倅が小さい時によく来たような記憶があります。



ん。暇人や子供たちの格好な釣り場になっていますが、もちろん禁止です。やはり倅が幼い時にエビカニを釣りによく行きました。近所の子供たちも連れて行ったのですが、落ちると危な

前にも言いましたが、**グリコ、健ちゃん、うさお**が通った高校が南側の丘の上に建っています。

体育の時間のマラソンのコースは、この三つ池公園の尾根伝いのアップダウンの厳しい道で、毎回吐きそうでした。午前の授業だともう胸が一杯で、弁当が喉に通りませんでした。食べましたけど。

春は桜が綺麗で花見客が集います。私達もよく行ったものです。**ライ**隊員もまだ子供でした。

池の敷地から見ると昔はもっと大きな池では無かったかと思われれます。公園の整備やグラウンドの建設などで埋め立てられて行ったのかも知れません。

健ちゃんの家はこの近くで、**健ちゃん**の記述にありましたように、ここには TVK(テレビ神奈



二つ池

二つ池は池というより沼って感じです。葦穂や蒲の穂綿で池の表面が覆われていて、この池に何やら大鯰のような主がいて、子供たちをぱっくりってな事が起きても、おかしくありませ





二つ池

いと注意した矢先に、池に嵌まった子がいて往生しました。（イケちゃんって言いましたけど！）本当は、バス釣りには恰好な場所です。

今も満々と水をたたえています、この池も他の池同様、溜め池として人工的に作られたと言われています。この地も谷戸地で、ヘラブナがいるとも、鯉がいるとも言われていますが釣り上げているのはあまり見たことがありません。

生麦の漁師町



ここは川です。
海ではありません。

「入江川」の章や「鶴見線」の章で少し述べましたが、「国道駅」の裏側に、今も昔ながらの風情を残す生麦の町があります。**健ちゃん**のお父さんの稼業もこの地だったと聞き、お正月に**健ちゃん**が持って来てくれる海老や蟹は、生麦市場で仕入れてくれるものです。

そう言えば、釣り船から見た生麦の浜は貝殻があふれていたなあとということで、懐かしく思い行ってみることにしました。





鶴見川の鴨

あれ、生麦の鶴見川の川岸は貝殻で白一色だったはずなのに、クレーンが林立しているぞ。ライ隊員と急いで行って見ると川岸の護岸工事が始まっており、平成17年2月には完全に無くなってしまうとのこと。

残念、こんなに情緒がある所なのに、鴨だって遊んでいるのに、またひとつ江戸時代の文化が消えて行きます。



リアルト劇場・ロマンス座



リアルト劇場



ロマンス座 (いずれも「わか町の昔と今」より)

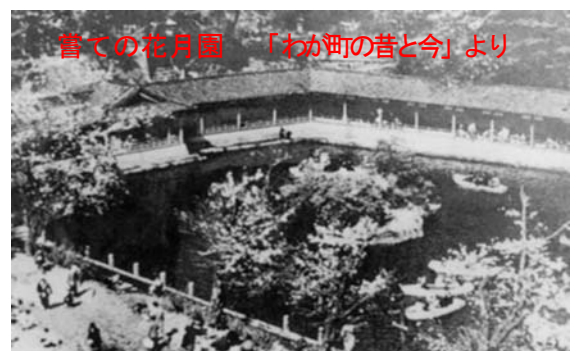
以前にトマソン隊で「劇場」を紹介した時、鶴見のリアルト劇場の話を書きました。私が鶴見に住んでいた時には、既に無く、ストリップ劇場だったことを書きました。一度見てみたかったな。

しかし、こんな写真を見つけました。しかも、ロマンス座の劇場のおまけつきです。二軒並んで建っていたようです。昔は流行の先端、文化の発祥地だったようですが、今はこんなスーパーマーケット「くりしま」になっています。TICAさんは、ここで買いもの！有名人に多く会えるぞ！

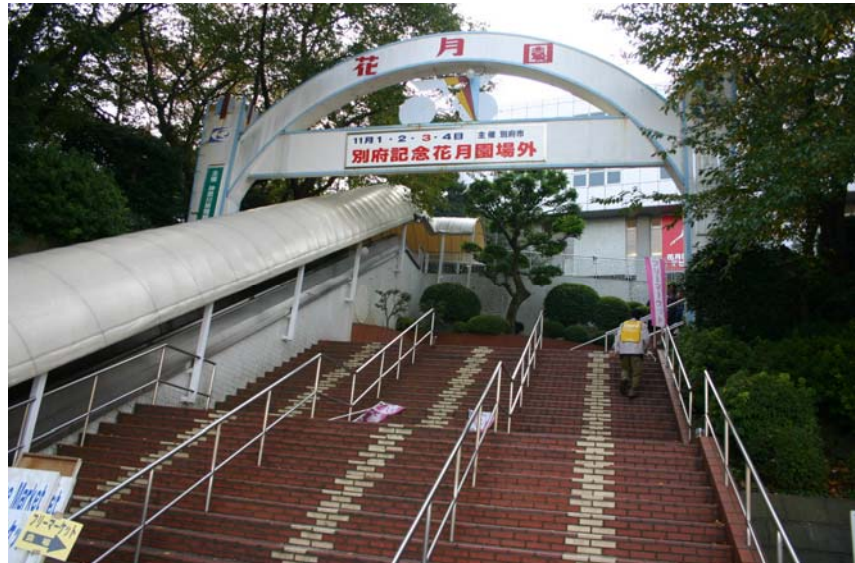
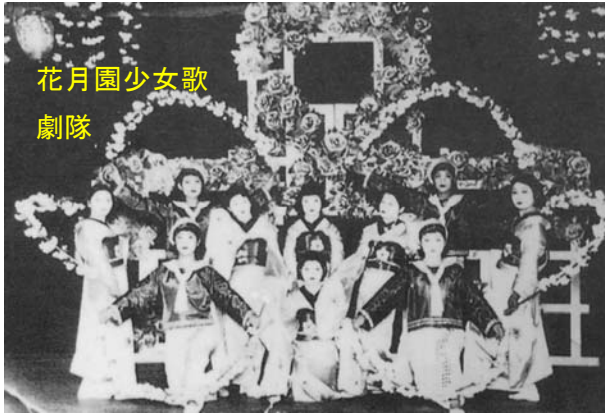
スーパー「くりしま」
ドクター・マシロみたいだ！

花月園

花月園の名前は、小さい頃からよく知っていましたが、実は今まで一度も足を踏み入れたことがありませんでした。競輪場に子供が行ってはいけないと



昔の花月園 「わか町の昔と今」より



教えられていたこともありますが、高校時代にも行ったことはありません。何かやくざな香りがしていました。

吃驚です。あまり奇麗に整備されていて、賭博の後ろめたい陰湿さはかけらもありませんでした。

確かに倅は、良く自転車遊びに行っていました。

この日は休みの日でもあり、フリーマーケットをやっていました。そしてサーキットで、黙々と走る孤独なランナー。哀愁だなあ。

蓋 その3

家の前の蓋が、リニューアルしました。新しいデザインです。この町ではこんなふうに徐々にしか、新しいものになりませんが、新興の開発地に行ったら、きっと新しいデザインの蓋ばかりでコレクションが溜まりますね。図柄は、「下り藤」の様でもあり、南洋の木の様でもあります。



横濱の泉

以前おじいちゃんの項で、石川町付近におじいちゃんが住んでいたと書きました。打越のあたりと聞いています。このの峠には横濱でも結構有名な湧き水があり、居留区の外人達はここの水を使用したのではと思っています。今は道路脇にぽつねんとあるだけで、通る人も知っているんだか、知らないんだか。潰されないことを祈っています。



遠景に見える橋は打越橋で陸橋として建てられたのは古く、横濱村居留区ができた頃からと聞いています。この橋にも心霊現象が起こるらしく、心霊スポットとしても有名だそうです。この泉よりもそのほうが、このあたりではよく知られていたりします。

去年このあたりを探訪していたときに見かけた山手聖公会教会が火災で焼け落ちました。資料的に貴重な館でしたが、失うときには早いものです。

廃線マップ

世の中には「廃線マップ」と称されるものがあります。日本鉄道便覧だったか？の分厚い書物の巻末に付録で、こんなものがあります。

最近では地方で鉄道を用いる人が激減したので、ここ数年で廃線になった所が随分あります。長野電鉄の一部支線とくりはら田園鉄道もそうです。うさおが鉄道施設の健全度を調査し、危険箇所の改修、改善を指示しましたら、貧乏でそんなお金は捻出できない、廃線すると鉄道事業者は息巻いていました。

去年、「くりはら田園鉄道」は廃線になりました。え〜……。廃線後を辿るのは一種独特のノスタルジーがあります。

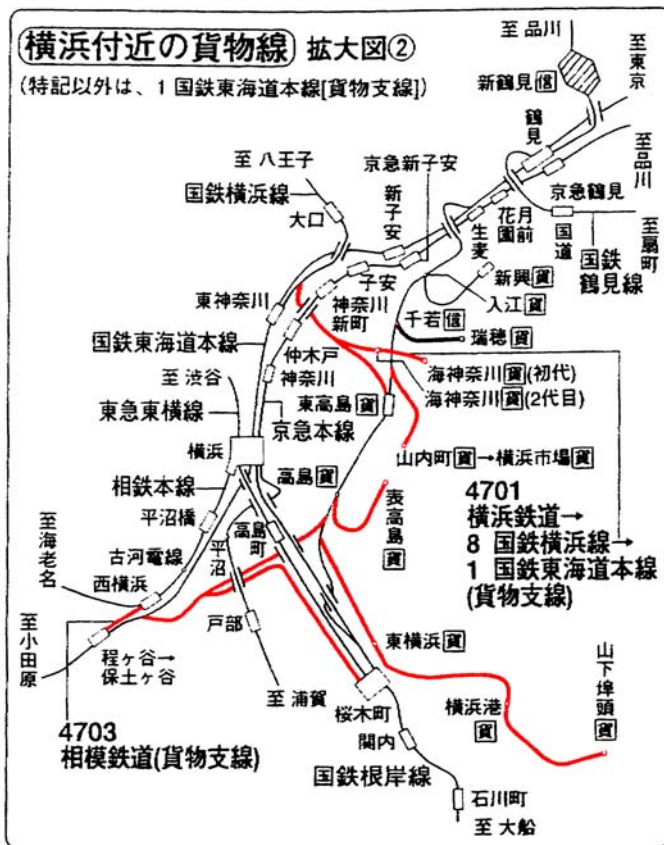
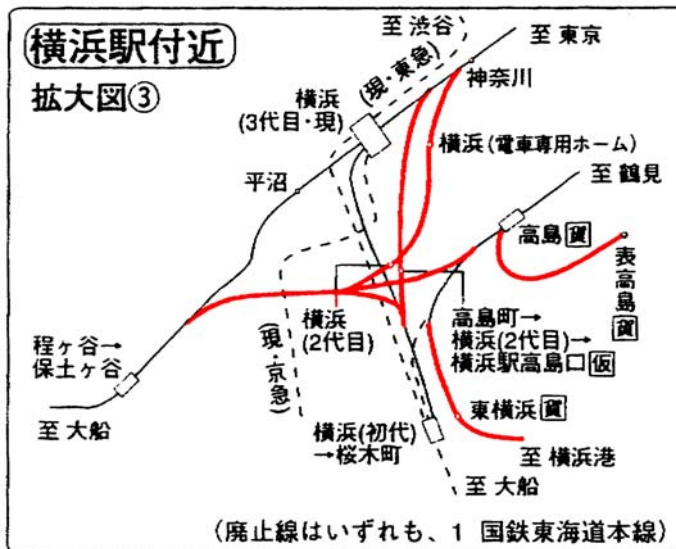
でも鉄チャンではありません、

うさおは・・・。

ちなみに JR などの軌道に立ち入るには、工事管理者の資格が必要です。赤い本が在来線の管理者必携で、青い本が新幹線のものです。

参考文献

注1) 「あきらめぶし」
 地主、金持は我儘者で、役人などは威張る者。
 こんな浮世へ生れて来たが、我身の不運とあきらめる。
 お前この世に何しに来たか、税や利息を払うため。
 こんな浮世へ生れて来たが、我身の不運とあきらめる。
 苦しかりうが又辛かりうが、義務は尽くさにならぬもの。
 権利などを欲しがらる事は、出来ぬ者だとあきらめる。
 たとえ姑が鬼でも蛇でも、嫁は柔順(すなお)にせにならぬ。
 どうせ懲役するよなものと、何も言わずにあきらめる。
 借りたお金は催促されて、貸したお金は取れぬもの。
 どうせ浮世は斯様(こう)したものと、私や何時でもあきらめる。



米は南京、お菜(かず)はひじき、牛や馬ではあるまいし。
朝から晩までこき使われて、死ぬより増しだとあきらめる。
どうせ此の世は弱い者いじめ。貧乏泣かせだ是非もない。
こんな浮世へ生れて来たが、我身の不運とあきらめる。
汗を絞られ油を取られ、血を吸い取られた其の上に、
投(ほう)り出されて踏みつけられて、これも不運とあきらめる。
長い者には巻れて了(しま)え。
泣く子と地頭(ぢあたま)にゃ勝たれない。
貧乏は不運で病気は不幸、時よ時節とあきらめる。
あきらめなされよ、あきらめなされ、あきらめなさるが無事である。
私や自由の動物だから、あきらめられぬとあきらめる。



リアルつくの

リアルト劇場を偲んでつけられた
商店街の名前。

注2) 「j a z z ヴォーカリスト第179、184戦 (参戦記)」

『暗中模索』を英語で言うと... ?

2004年9月17日(金)、および、10月15日(金)渋谷・SEABIRD、第三金曜日は林バンドの月例ライブ、通称「三金」。「一金」や「二金」に比べて、バンドも客層も平均年齢が若い!

「二金」では若手に属する私も「三金」では突出した最年長だ。それだけに選曲も演奏スタイルも相互にいい刺激になると思う。

この両日は、ゲストプレイヤーが多彩だった。9月17日は小鳥の鳴き声の笛を操る謎のオッサンが登場。どうやらこの人、アジア各地を転々としながら時々日本に帰ってきては SEABIRD に寄るといふ噂の怪人。その他のゲスト奏者は三金らしく、ピアノもラップもフルートも、みな若い世代ばかりである。

9月17日、この日はちょっと凝った小噺を用意してきた。これは私の友人 T 氏から仕入れた英語ネタである。「次の日本語を英語で言い、さらにそれを和訳しなさい…暗中模索」この答えは、「あなたはモサクさんではありませんか?」となる。暗中模索を英語で言うと「Aren't You MOSAKU?」だというヒッカケである。つまり「日本語に訳し」ではなく「日本語で言うと」というのがミソ。「What Time Is It Now?」をネイティブが言うと「掘った芋、いじんな!」という日本語に聞こえるというのと同じ原理のトンチである。

米国生活を経験した友人 T は他にも日本でのツベルクリンは米国で「タバーキュラン」と読むなど、いろんなネタを提供してくれた。

しかし、このネタは不発に終わった。まあ、最真面目に見てもヤヤウケ程度だ。これは当然、話し手である私の話術の未熟によるところが最も大きいのだが、マスターに言わせれば「よく客層を考えてネタを選ばなきゃ」ということだった。つまり、若い人には四文字熟語の「暗中模索」自体に馴染みが少ないということだ。

(後略; 写真略)



<http://saigottimo.ttcn.intranets.co.jp>